

『5月の花を』

遺愛の卒業生で、2年前に80歳で『猫を祭る』という小説で小島信夫文学賞を受賞した千田佳代さんが、先月5月30日に本を出しました。本の題は『5月の花を』です。遺愛にも3冊贈呈して下さい、早速礼拝で生徒達に紹介しました。

読んでいて心に残った言葉が2つありました。

一つは主人公が女学校時代にいつも無意識につぶやいていた

「March winds and April showers
bring spring and May flowers.」

(3月の風と4月の雨は春と**5月の花を**もたらします)

と言う言葉です。3月と4月に風と雨にさらされ鍛えられるからこそ、春がきて5月には花々が美しく咲き乱れる。3月にも大雪が降った今年の函館の桜とツツジは本当に見事でした。千田さんは本のなかで、函館の5月は、一度に花が咲き競う、梅と桜が同時に咲き、クロッカスのあと微妙な差で水仙が咲く。そしてライラックへと続くのだと書いていました。これから、函館はアジサイが咲く季節となります。

もう一つの言葉は、「恥ずかしがっても、恥ずかしがらなくとも、この歩き方よりないのだ。これで走ろう。これで歩こう。」…主人公は函館空襲で米軍に足を撃たれ入院し、片足が不自由になって復学しました。人前で歩くことにためらいをおぼえる頃、女学校でのPTA運動会の「暗算競争」に急遽出場することにした際に、友人の手助けでトップでゴールテープを切れた時の思いです。

ないものねだりをし、その場で立ち尽くす事が多い私達ですが、大切なのは今、自分が置かれているところから歩き出すことなのでしょう。



5月の遺愛「科学館」前のツツジ

(おわび)

5月28日掲載の赤澤則子先生の記事に2箇所訂正があり、関係の皆様へお詫び申し上げます。

1.『貂の会』は「**てん**のかい」と読みます。

2.アドレスは www.akazawanoriko.net です。

申し訳ありませんでした。



千田佳代さんの本

2012年6月13日(水)